

## 第1回小委員会での主な意見と対応方針

鈴鹿市都市マスタープラン一部改定について

- 農業従事者人口が激減しており高齢化も著しい、後継者がいないところも多く耕作放棄地が増えている、今後の農業について心配している。
  - 農業や自然と調和したバランスのあるまちづくりが必要で、産業・農業共に検討を進め、農業で活用する場所、産業で活用する場所それぞれを議論しながら鈴鹿市内の土地利用を検討します。
  
- 参考資料2において上位関連計画の中に健康づくりの計画が入っていない。都市マスタープランに健康づくり計画を反映した形で改定できるとよい。
  - 「ウォークブル・シティ」等健康寿命と都市計画の関連する言葉もあり、健康づくり計画をどのような形でまちづくりに反映できるか検討します。
  
- コンパクトシティ・プラス・ネットワークについて、鈴鹿市は3つの地区（平田・神戸・白子）の駅周辺に集積され、分散型になっている、効果的に集約できていないと思う。

市街化調整区域のインター周辺に企業誘致を積極的に行っても企業の近くに住宅を建築することができない現状がある。

  - 長い年月がかかると思うが、一つの街に集約できればと考えています。  
インター周辺は産業集積が現在進行中であり 西部地域の拠点として市街化調整区域の拠点として注目をしながら大きなビジョンで検討を進めます。
  
- 教科書的なコンパクトシティ・プラス・ネットワークは鈴鹿市には合わない、鈴鹿市の現実と将来展望を見据えてクリエイティブに独自に形を考えていく事が基本的な考え方。

現都市マスの5つのテーマ別方針等ベースはうまくできているので課題や現状を5つのテーマごとに議論整理していくとよい。  
様々な分野で技術の開発が起こっているため、現都市マスのベースに戦略的に行うプロジェクトが加わると動きがある都市計画・都市マスができる。

  - 現行都市マスの5つのテーマ別方針をベースに検討を進めます。
  
- 将来構想を持ち、50年体系の中の5年という考えで検討してほしい。

市内に工業系の高等教育機関が無いこの点も生産年齢人口を増やす構造の中ではデメリットになる。

  - 都市マスの中でどこまでできるかわからないが、総合計画へ働きかける等行い、昼夜間人口のバランスがとれるよう検討します。

- 資料の、一次産業、二次産業、三次産業の人口推移の中でその他産業はどのような産業を指すのか。
  - その他産業は新しい産業区分ではなく、改めて一次産業、二次産業、三次産業の区分で推移を見ています。
- カーボンニュートラルや気候変動適応がマスタープランの重要な柱になる。SDGsについても掲載の必要がある。
  - 環境部局や関連部局と協議し、検討を進めます。
- 将来の産業形態の変化を見据え、一社に頼らない多岐にわたる分野の企業誘致や物流の拠点を考えていくべきだ。
  - 産業部局と十分に協議を行い、工場や物流の需要把握し検討します。

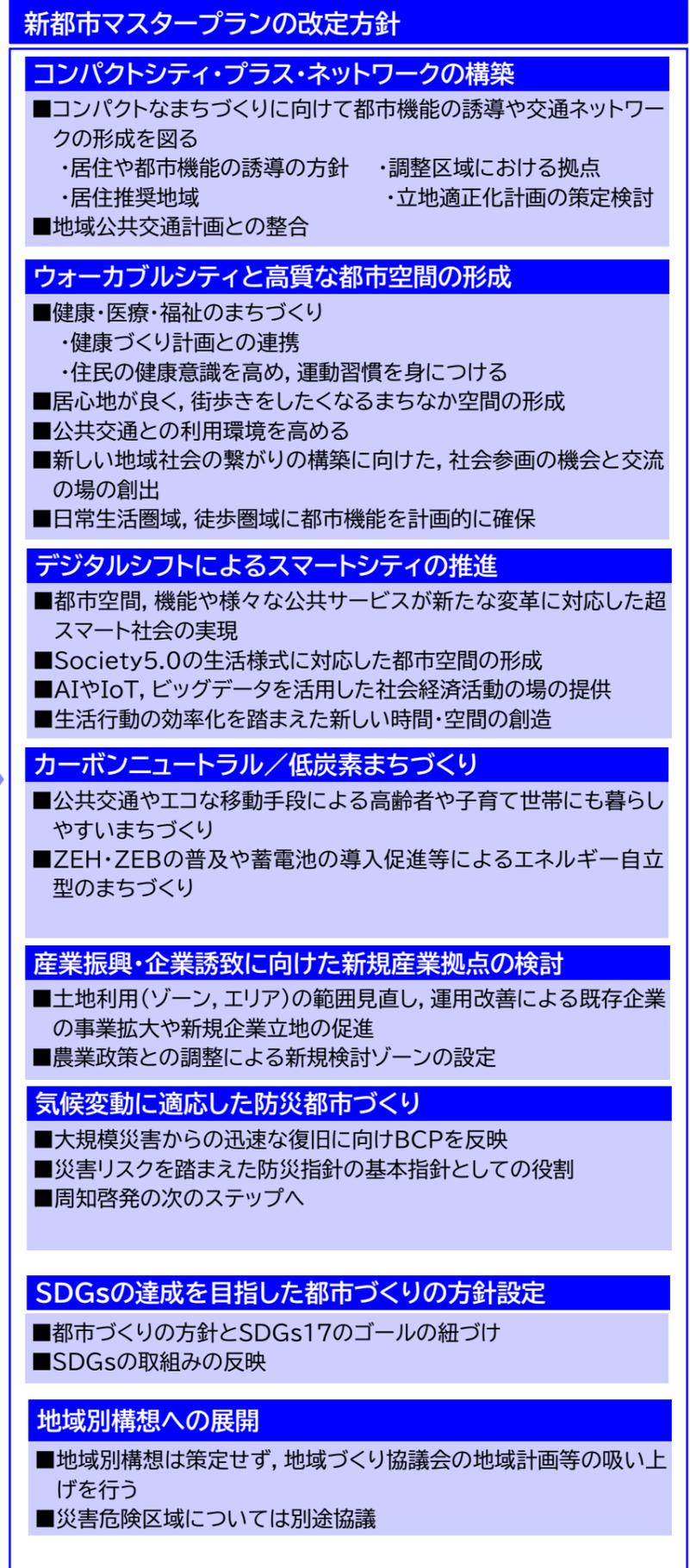
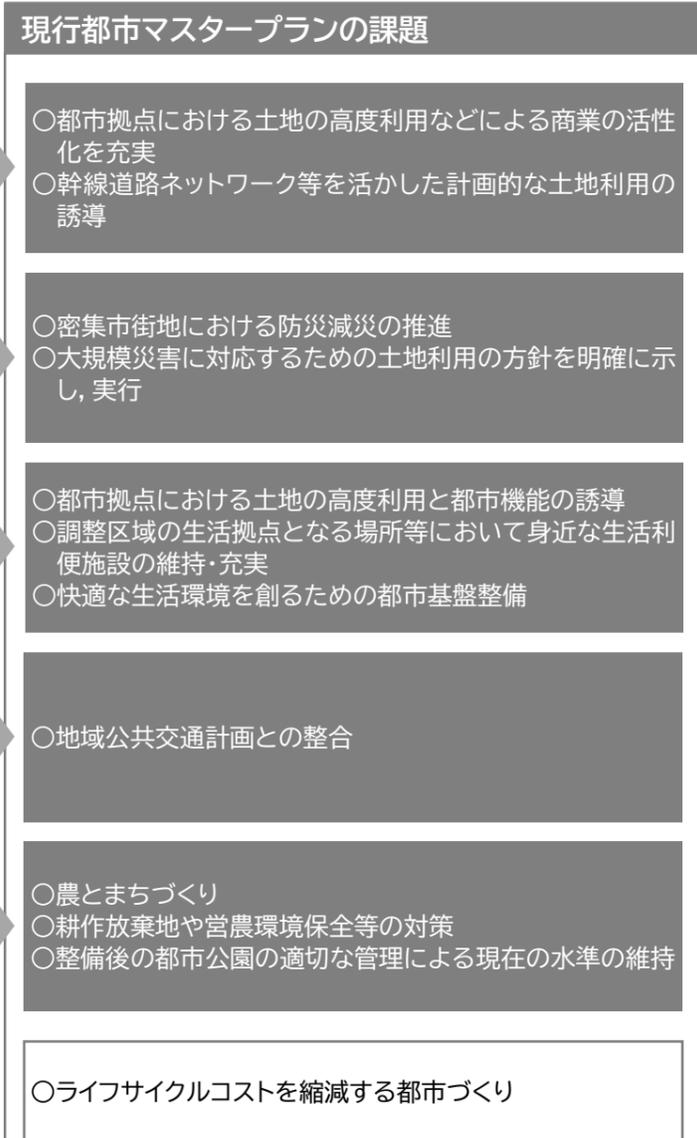
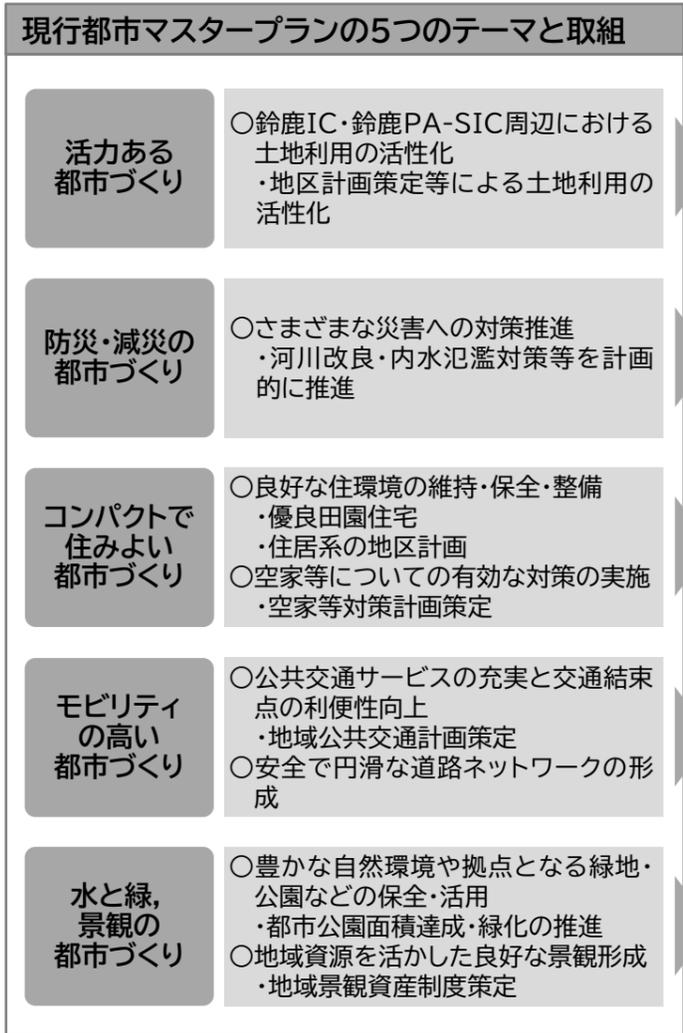
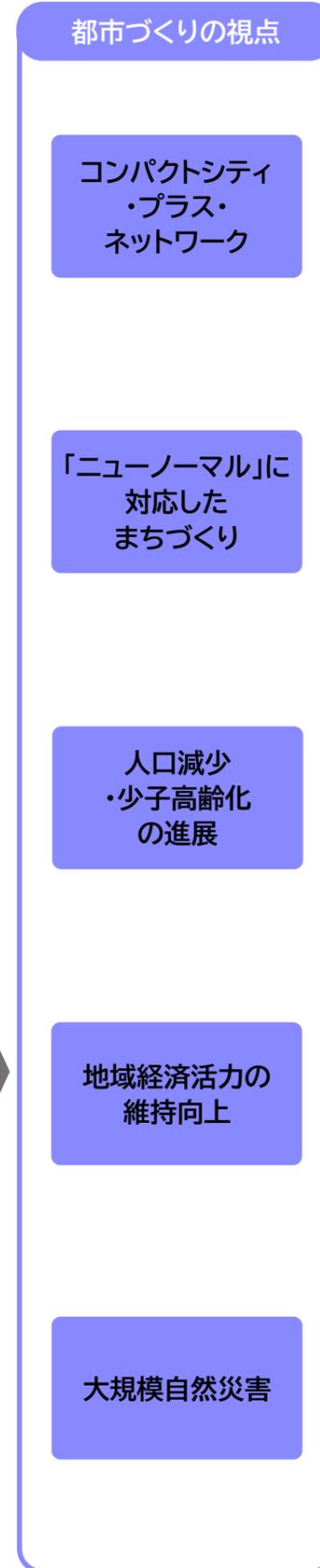
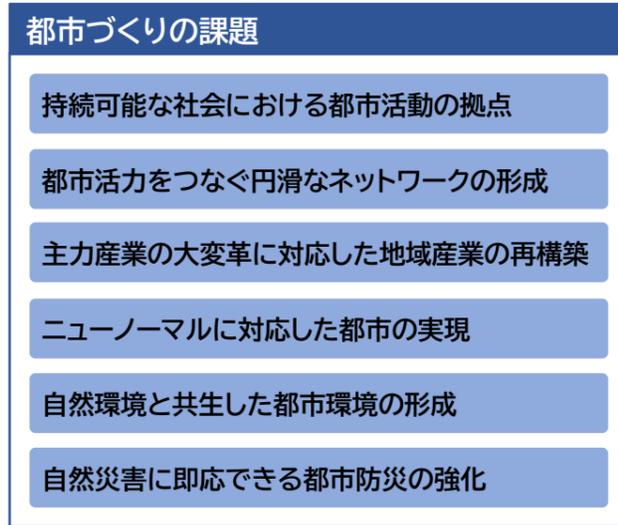
#### 市民意向の把握手法について

- オンラインは新しい取り組みで良いと思う。  
災害危険区域等の地区において重点的に地域の将来像を議論していく事は良いと思う。  
市民参加のタイミングは改定案について計画案の方向性が出た早い段階で意見を聞き、どんどん良い意見やいいアイデアを取り込んで計画案をブラッシュアップしていく方がよい。
  - タイミングという点についても検討します。
- 各業界、各産業（農業、商業、工業、観光）からアンケートを取り分析したらどうか。
  - 各分野における意見集約について検討します。
- 若い人の意見を聞くことは良い。高校生も鋭い意見を持っているので自分たちが帰ってきたい街はどんな街なのかという感覚で、高校生の意見を聞くと良いと思う。
  - どのようにすれば若い層の意見を集約できるのかを念頭に置きながら、市民の意向を把握します。

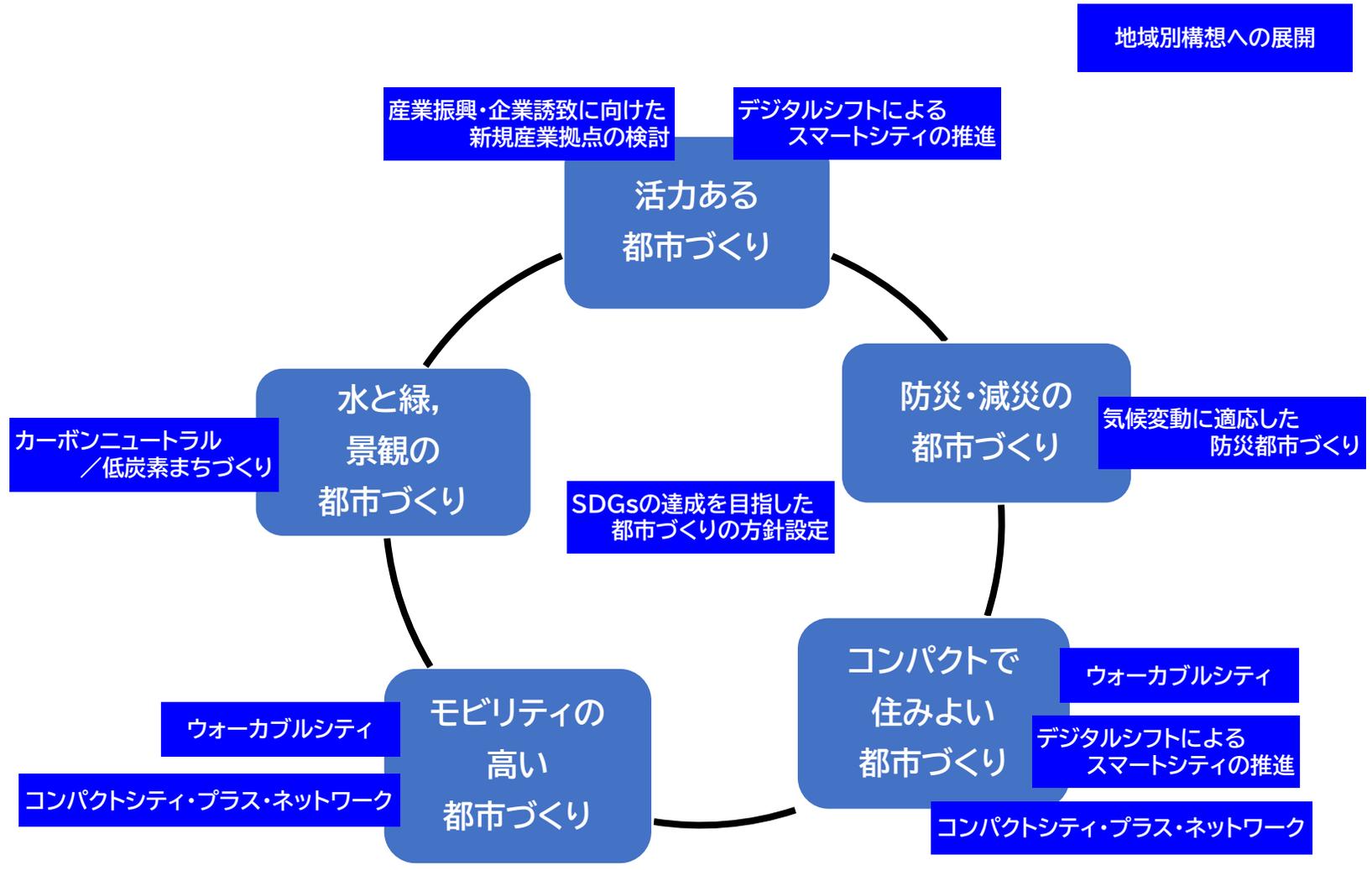
# 鈴鹿市マスタープラン改定

## 第2回都市計画審議会小委員会資料

令和3年12月22日



# 新都市マスタープランの改定方針



# □鈴鹿市都市計画マスタープラン改定スケジュール(案)

